



いま金蘭千里学園に 起きている変革

尚友会会長

岸本 大三郎

新型コロナウイルス感染者数のデータは厚生労働省の「全数把握」に代わって国立感染症研究所が「定点把握」のデータ（一医療機関あたり平均患者数）を五月八日以降そのホームページに公表しています。これによれば「第八波」のピーク三十人（二〇二二年/十二月/二〇二三年一月頃）、「第十波」のピーク十六人（二〇二四年二月頃）に比べ、直近（二〇二四年六月十七〜二十三日）の週はやや増加していますが五人程度と減少しています。つまり、六か月周期として見ると減少傾向であり「コロナ収束」の気配が見られます。「コロナ終息」という見方は安易すぎますが、何とか減少傾向で落ち着いてほしいと考えています。教職員の皆様、在校生の皆さんが数年間の逆境に屈することなく多くの変革を創出して学習の成果を上げておられることを知り、心からエールを送りたいと思います。今年の大学進学成績も医学系を主軸に素晴らしい結果となっており、大いに改革の成果が上がっていると感じます。皆様もどうぞ自分を信じて自己変革に挑戦して頂きたいと思えます。

今回の評議員会は四月二十七日に役員、各メンバーが学園に集合する形で開催することができました。同窓会運営をどのように変革するか真剣に意見を出し合い、ごつくばらんで熱心な討議を頂きました。学園の皆様が変革を進めている中で同窓会としても「変革無くして進歩無し」の意気込みを大切に、これまでの運営や行事をゼロベースで見直す方向性が承認されました。今年の構想としては従来のホームカミングデイの形態は一旦白紙とします。各学年の在校生の皆さんが自ら手を上げ、実行委員として手作りで企画・実施している「文化祭」に同窓会がコラボ行事として参加します。まずはできるだけ多くの皆さんに今の金蘭千里学園に起きている変革を肌で感じて頂くことが目的です。楽しく充実した企画満載です。できる限り多くの方に参加をお願いします。また、令和元年に実施した「尚友会忘年会」を今年は十一月十五日（金）に予定しています。こちらも振るってご参加頂くようお願いいたします。



ご挨拶

金蘭千里学園 理事長 学園長

辻本 賢

日頃より、皆様には、理事会や評議員会を通じて経営面でも、また講演や内科検診、歯科検診など教育活動に多大なご協力、ご支援を頂き有難うございます。

今号は、耳触りの良い所得制限なしの私立高校授業料完全無償化に賛意が寄せられているが、選挙権を持つ皆様にその問題点を訴えます。

私学は、創設者が育成したい人材を建学の精神で示し、寄付行為を行い、授業料を徴収して教育活動を行う。保護者は多様な私学の中から、我が子に相応しい教育を享受できる環境を整備した学校を選択し、授業料を支弁する。このように、授業料は教育の自由そのものであり、教育の質の維持、向上を図り、生徒や保護者の満足を保障する。これを踏まえて、以下に論ずる。

金蘭千里学園の収入のすべては授業料と国の経常費助成といえる。授業料は、二〇一〇年から経済的理由により私学進学希望者のセーフティネットとして、府が私立高校の標準授業料五十八万円（現六十三万円）を設定し、五十八万円を超える授業料を徴収する学校が超過分を負担することに同意する無償化推進校の生徒には、授業料支援補助金を交付する。それが今や、施行時には想定しなかった府の所得制限なしの私立高校授業料完全無償化制度への移行は、私学に減収という犠牲の継続を強いる。学校負担分は、受益者負担の原則から保護者が負担すべきであろう。かかる不合理な制度による金蘭千里高校の累積負担額は約一億円である。これは同時に、大阪府の私立学校の授業料を六十三万円に規制し、私立学校の教育の質の向上を図る努力を抑制する制度設計であり、経営責任なしの価格統制でもある。

国の経常費助成は、二〇〇八年から府は私学への経常費助成金を生徒一人あたり国の財源措置額（現三五八、二四八円）以下に削減（現三四二、二〇〇円）し、全国レベルで四十六位である。因みに金蘭千里中・高の削減累積額は約四億円である。

視点を公私の切磋琢磨に転ずれば、大阪府立高校の一人当たりの教育費は一〇八万円、私学は六十三万円±三四二、二〇〇円（国の経常費助成）＝九七二、二〇〇円であり、この格差を鑑みれば、大阪私学の教育力の向上に寄与する環境にはない。

新制度の強行は、生徒の皆さんのためにならないことは明白である。



ご挨拶

金蘭千里中学校・高等学校 校長

大中 章

皆様、日頃よりお力添えをいただき誠に有難うございます。本校は毎朝の二十分テストや、一クラス約三十人の少人数教育など創立以来の伝統を守りつつ、創立五十周年改革で、新制服の制定、クラブの大幅増設、文化祭・体育祭の充実、キャンプ・自然研修の充実、生徒による学習記録の習慣化など大きな改革を実行し、その後も学校のICT化、各種プレゼンテーション大会への参加など、新たなチャレンジを続けてきました。そして、本校での教育活動を通して、自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する、すなわち自律する力を身に付けて欲しいと願っています。

この度迎える創立六十周年では、さらなる多様性の時代に調和しながら、個性、自律性、そして社会性を磨く教育を進めたいと考えています。具体的には、今年度より中三・高一対象の英数習熟度別講座編成に代わるアダプティブラーニングを、また、指導のレベルを定めた新たな生活指導方針である金蘭千里五則を実施しています。

今年度、五月開催の体育祭はフエアプレー、チームプレーで成功裏に終わり、五月から六月にかけての中一・中二・高一・高三のキャンプ活動、中三・高二の信州と北海道での自然研修も、自然を十分に満喫し、無事に終了することができました。そして、七月末から高一の希望者が参加するイギリス海外研修が実施される予定です。

昨今、個別の学校見学者が増加しています。そして、学校説明会への参加者数の安定が中学入試の受験者数の安定に繋がっていることは有難いことだと思います。一方、コロナの影響もあってか、ここ数年、不登校の生徒が増加しつつあることはとても気がかりです。今後、教科指導、生活指導、進路指導の全てにおいて目の前の生徒を大切に、一人一人に寄り添っていくという本校の基本的な姿勢を着実に実践していくことが肝要であると考えています。